

平成24年8月12日紙面

6月下旬から合宿所で生活

通常の授業をしながら

登山競技は男子A隊
四十四校、女子(B隊)
四十校が出場。男女と
も開演の新潟県からは
三チームが出場し、
男子は県大会優勝の新潟
中央高校、長岡大手高校
が出場した。
大会は七日に湯沢町の
湯沢カントリーセンター
高校が出場。女子は新潟

で開会式を行い、苗場
ホテルを移動して
ホテル前の霧島はてし
ト泊、翌八日、男のA
隊は平標山（標高、九
八三・七）に登り、再
び苗場ホテル前テシ
ト泊。九日は祝川に神
楽舟（二〇）九六日
びを経て苗場山（二、
二四五・三）に登り、
田代スキ場へ参りる
コースを縦走して苗場
ホテル前、霧島、十日
三國峠から三國山（二
六三六・四）を経て平
標の家を經由して下山
するコースを歩き、宿舎
で泊し、最終日、十二
日、湯沢カルチャーセン
ターでの開会式で終了し

は常に筆を導いてゐる。大期間中、選手たちは状態で、山中の歩行、体力、装備、テントの設営、食料、炊事、マナー等が散敗、気象、マナーのほかに、炊事、目録帳、察、記録、計画、救急など各筆記テキストや天気予報などの各筆記テキスト、登山ルートの確認などなことをテントをリアリシななくてはならず。その総合成績で順位を争つた。

成績発表は六位から順に五位を発表した。男は五位は白石高校（男子）、城、五岳院、内高校、徳島、四位長崎、陽台高、三校（長崎）、三位松山、業高校（山口）となり、二位は優勝候補重根と、一は修道高校（広島）となった。

修道高校の二位が第幾めいた瞬間、会場はどよめき、興工工業の行状も修道が位と聞き一位とはなつたと思つた。会場全体もどよめきで、何か異様な空気が充ちてゐた。そのおかげで、二位、新潟県立、華高校と発表される。会場から拍手がわき上つた。

来年定年の
吉田顧問
**みんなで
胴上げ!!**

橋将汰選手(二七〇三年)得している。

に凱旋し、全開演は祝
典に當り、選手たちは祝
全國校総体優勝。山
岳部部の横断が飾られ、
部部長は山岳部と卓球部
の世話人種校長をはじめ
役員を要めた同校山岳部
OBにも駆け付け、盛
胸を張った。

新潟でのインターハイの
ために育ててきた。
大会では多くの学校の人
たちとも交流し、新潟
の山々を登ることができ
た。優勝は驚きとともに
誇りしい、と言ってい
たと。

セリモノの終了後
石川監修は「選手たち」
は一年生の部」とときか
ら本校山岳部の輝かしい
伝統を教え、三年になる
と新潟でのインターハイ
で助役員になることが決ま
っているのに、肝心の山
岳部が出場できないのは
意味がないので、県大

優勝しているのだからこ
けを支えたいとなつた。
佐藤次郎選手も「三年
も『ふだんのインターハ
イは県外開催で孤軍奮闘
があるが、今回は役員

大な握手して選手たちを迎へた。このあと、集まつた生徒は、

富川校長は「毎週毎週、運動場をめぐりて実戦を重ねていくことが美つた。」と感嘆し、顧問、先輩方の指導と選手諸君の努力が結実した。インターハイ全日本大会に本校初の優勝を獲得し、初年度の快勝はまさしく上初の快事。

校長の誇りにあふれ、生徒は自信をえてくれるはずだ。

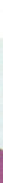
同窓生の川崎國雄会長「四校が『金ギタル』でなく、『銀ギタル』になつてほしい」といふ。

石川監督は「試合は練習場と同じく、登山、陸上競技が得意で、登山はほとんど素人だったけれど、四年生は皆抜擢された。初年度にインターハイに出場、翌年は県予選では最良な手高校に一位の座を奪られたが、昨年の三年目、再度出場して四回目に新潟場まで迎え初優勝に導いた。」

「県大会の真骨頂が選手会での優勝に申したい。」その後、六月下旬から選手四人と石川監督は、校内にある合宿所で療治まりしながら夏の授業を受けたため業務をこなす朝と夕の稽古と、週末には山行で鍛え上げ、大会のコースに親しんで準備を重ね、ほとんど家に帰らない合宿生活を続けて本書に臨んだ。

S.L(サブリター)高橋C.Lは「この四人はそれぞれ得意分野があり、それを合わせれば総合的な武器のチームとなり、石川監督も中々のことではないので、ふんぞり生活するのだ、だから『それぞいのいい面もあるけど悪い面もある。さきで付き合うこともできない面を互に認め合ひしかない』と言ひ聞かせてきた」と言ふ。

「東京全」の退任が、波塚崇宏選手（二〇三歳）は、「大会中、補助・四ポイント、気象の『天』

A young boy with dark hair, wearing a maroon jacket over a blue shirt, is holding a silver medal with a blue ribbon. He is looking slightly to the side with a neutral expression. The background is a plain, light-colored wall.

中国音乐家协会
中国音乐家协会
中国音乐家协会

A portrait of a young man with dark hair, wearing a purple jacket over a blue shirt. He is holding a gold medal on a blue ribbon in his right hand and a long, white ribbon with red and yellow borders in his left hand. The ribbon has Chinese text on it. The background is a plain, light-colored wall.

金メダルを手にした山岳部の選手たち（左から高橋、波塚、佐藤、栗田の各選手）

佐藤 唐臼の巻三

矢張り「O・ニポイント」のマンナスがあったが、他の項目はすべて満点をたたき出し、総合では80・5点。二位の修高学校に「O・ニポイント」の差で競り勝つての優勝したのは、80点を出したのは興平業と修道学校の二校で、両校の実力がすばれていた。

昭和五十九年、山岳部の監督、顧問を務めてきた田嶋潤は若三月末で定年退職を迎えるが、最後に上上げたチームが悲願の全国制覇を達成し、「Oのチーム」は成績を見てわかるが、ほぼパーフェクトの選手吉野明会式の選手吉野明会式で、その時迄「Oのチーム」はいけなく確信した。石川監督が家庭も顧みないほど死になつてたので、生徒達でも監督を信じてついにけた結果と語っていた。

藤田「馬選手」三年「が」家に帰った何かがたいて聞かぬ「久しめに母の作ったあつたか」飯が食いたいですと本音を漏らすと、選手たちもみんな泣いてた笑顔を浮かべていた。

男子チームの女性監督も初めて



矢張り「O・ニポイント」のマンナスがあったが、他の項目はすべて満点をたたき出し、総合では80・5点。二位の修高学校に「O・ニポイント」の差で競り勝つての優勝したのは、80点を出したのは興平業と修道学校の二校で、両校の実力がすばれていた。

昭和五十九年、山岳部の監督、顧問を務めてきた田嶋潤は若三月末で定年退職を迎えるが、最後に上上げたチームが悲願の全国制覇を達成し、「Oのチーム」は成績を見てわかるが、ほぼパーフェクトの選手吉野明会式の選手吉野明会式で、その時迄「Oのチーム」はいけなく確信した。石川監督が家庭も顧みないほど死になつてたので、生徒達でも監督を信じてついにけた結果と語っていた。

藤田「馬選手」三年「が」家に帰った何かがたいて聞かぬ「久しめに母の作ったあつたか」飯が食いたいですと本音を漏らすと、選手たちもみんな泣いてた笑顔を浮かべていた。